

主任班グループ別研修

研究テーマ『園運営の要としての主任の役割～役割を果たすための力量を身に付ける～』

主任班は、第2回研修会に引き続き、研究の視点に沿ってグループ協議を進めた。また、今回は同じ視点のグループで集まり、視点別研修として質疑応答の時間を作り、協議を深めた。全体会では、主任班1・2合同で発達支援の部屋専任教諭の報告を聞くと共に、2人の助言者から主任として必要なことについて御指導をいただき、意識向上につながった。

<グループ協議>

- ① 少人数園、複式学級の保育の充実（Aグループ）
 - ・異年齢で保育をする機会を作ることで、年長児が年上の意識をもつようになり、年中児は年長児から刺激を受けたりする。また、いろいろな教師と関わる場にもなる。来年度の学級編成を見据えて、今年度のうちにやっておくとよいことを考え、保育に取り入れていくとよい。
- ② 保育推進のリーダーとしての発信力や助言力の育成（Bグループ）
 - ・主任として、他の職員を助けるアドバイスをしている。職員には主任に頼りすぎず自分で考えて動く力をつけてほしい。主任に次ぐリーダーを育てることも必要である。
 - ・発言しやすい職員室の雰囲気大切にしたい。
- ③ 保育推進のリーダーとしての発信力や助言力の育成（Cグループ）
 - ・職員を認めたり褒めたりする関わりを心掛けてきたことで、困ったことや分からないことを自分から発信してきてくれるようになった。受け止めたり寄り添ったりすることが大切だと感じた。それぞれの職員に応じた関わりができるよう、主任自身も心に余裕をもちたい。
- ④ 幼小の円滑な接続（Dグループ）
 - ・幼小の連携では、計画・交流のみで終わってしまいがちである。幼小の教師間で実践をフィードバックするところまで実現させていきたい。
 - ・小学校は複数の園からの入学を受け入れるため、それぞれの園への対応は大変だと思われる。共通理解を図るために、市内で共通の方針や冊子等があるとよいのではないかと感じる。
- ⑤ 園運営が円滑に進むためのマネジメント（Eグループ）
 - ・仕事の見える化の方法を紹介し合った。提出文書や行事関係を一覧にするなど、各園の取組を聞くことができ、自園に取り入れたいものを見つけることができた。
- ⑥ 発達支援教育の理解と保育の充実（Fグループ）
 - ・子供理解や発達支援の部屋での様子、そして担任がよりよい保育をするための情報共有の仕方について話し合った。必要な時に必要な支援ができるよう、紙面にまとめた資料の活用をして、来年度の保育につなげていきたい。
- ⑦ 少人数園、複式学級の保育の充実（Gグループ）
 - ・行事は例年通りではなく、子供の実態に応じて達成感を味わえる内容となるよう変更した。
 - ・複式学級の中の発達に課題を抱えている子に対して、各学年のねらいが達成できるような遊びの経験を保証していくことの難しさがある。
- ⑧ 幼小の円滑な接続（Hグループ）
 - ・学校によって幼小接続に対する温度差があるため、理解を深めていけるよう授業や保育に関わる機会を増やしていきたい。
 - ・様々な幼小接続の具体例を共有することができた。今後活かしたい。
- ⑨ 園運営が円滑に進むためのマネジメント（Iグループ）
 - ・園長と主任が日頃より、円滑に進むための手立てや職員の持ち味を生かした職場環境について話し合うことで、よりよいチームワーク作りにつながっている。
 - ・若手職員の育成では、相手に配慮しながら伝える難しさを感じている。先手になりすぎず、職員を信じて見守り、待つことも大切にしていきたい。



<視点別グループ協議>

- ① (AGグループ) 複式学級のもち方として、3年間の発達を抑えることが重要である。職員数が少ない中での課題もあるが、工夫しながら連携していくことが大切である。
- ② (BCグループ) 見通しがもちにくい若手職員には、仕事内容を明確化して伝えることが必要である。担当業務については、自らが発信していけるように声を掛けたり流れを確認したりしていく。
- ③ (DHグループ) 幼小の交流では、実践のみで振り返りの機会がもてないことが課題である。アプローチカリキュラムがない園も多いため、今後、作成に向けた研修ができることよい。
- ④ (EIグループ) 自園の取組や課題について、業務の見える化、若手職員指導など具体的な策を話し合うことができた。研修での協議の積み重ねが自園でのマネジメントにもつながる。
- ⑤ (FJグループ) 主任として専任教諭の立場や仕事把握・理解を深め、効率化に取り組んだ。よりよいクラス運営のため、専任教諭と担任をつなげ情報共有することが大切である。

<発達支援の部屋専任教諭の協議報告> 発達支援教育の理解と保育の充実 (Jグループ)

- ・他園からの支援資料や方法を出し合うことで専任教諭としての役割を詳しく知ることができ、参考になった。専任教諭は担任・キッズサポーターなど様々な職員を「つなぐ」役割がある。見立てや予想を立てておくことが大切なため、自分の中の引き出しを多くもつ必要性を改めて感じた。

主任班1 ～助言者御指導(抜粋)～

- ・幼小連携の取り組みを行っていくことで、就学する子供たちにとっては、学校が楽しく安心する場になると考える。また、教師側から捉えると、子供理解だけでなく個別最適な指導法や援助法、研修の仕方など双方の学びになる。互いの授業や遊びを見合ったり交流活動をしたりするなど、それぞれの「目に見えているものを理解すること」も大切だが、その裏にある授業づくりの工夫や遊びの環境援助の工夫など「見えていないもの」に興味をもつことも大切である。そのためにも、互いの教育活動の相違点に目を向けることが必要だ。
- ・VUCAの時代、Society5.0の時代と言われている社会の中において、教育課題に対してアンテナを高くし、さまざまな情報を共有しながら、教師自身も、個別最適化な学び、協働的な学びを進め、最適解を協働的に見つけていくことが大切である。
- ・教師の主体的・協働的な学びを充実させるためにも、風通しのよい職員室風土が大切になる。教師一人一人が、一番上の自己実現・主体的な姿に至るには、まずは職員の安全欲求、社会所属欲求を満たすことが大切である。各教師の資質向上、意欲向上を図る上でも、そのような風土ができるように、主任が力を尽くしてほしい。

主任班2 ～助言者御指導(抜粋)～

- ・主任の役割とは、職員に孤立感と絶望感を感じさせないようにすることである。職員にはいろいろなタイプがいて、人間関係の中にも様々な距離感が出てくる。窮地に陥っている職員がいたら、気遣い助けてあげてほしいが、自分で行うことが難しければ、可能な人に「つなぐ」ことをしてほしい。また、同僚性・共同性は汗と笑いの中から生み出されるもので、理論的な研修を積んだだけでは生まれない。何でもない時間の中で、互いの側面を知り、理解することが職員室の心理的安全性につながる。ここを主任がサポートしてほしい。
- ・研修の学びから力量がついている。それと同時に心の力量を伸ばしてほしい。そのためにも、主任と園長と一緒に園経営を話し合うことが必要である。また、職場、研修、地域などで出会った人々との関わりを活かすことが、幼児理解・保護者理解・地域・小学校との連携につながっていく。